

財政状態および経営成績に関する説明

1. 財政状態の概況

資産

流動資産は、26,021百万円(前連結会計年度比2.1%増)となりました。これは、主に「現金及び預金」が1,562百万円増加したことによるものです。固定資産は、21,536百万円(同1.2%減)となりました。これは主に、関東支店を本社敷地内へ移転したことに伴う売却等により「土地」が221百万円減少したことなどによるものです。その結果、総資産は47,557百万円(同0.6%増)となりました。

負債

流動負債は、9,956百万円(同7.6%減)となりました。これは主に、「支払手形及び買掛金」が564百万円減少したことなどによるものです。固定負債は、4,098百万円(同10.2%増)となりました。これは主に、設備投資の増強により「その他」に含まれるリース債務(固定)が増加したことなどによるものです。その結果、負債合計は14,054百万円(同3.1%減)となりました。

純資産

純資産は、33,502百万円(同2.2%増)となりました。これは主に、親会社株主に帰属する当期純利益の増加により「利益剰余金」が2,071百万円増加したことなどによるものです。また、純資産より非支配株主持分を除いた自己資本は29,901百万円となり、自己資本比率は前連結会計年度末の61.4%から62.9%と1.5ポイントの増加となりました。

2. キャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下「資金」といいます)は、前連結会計年度末に比べ2,166百万円増加し、当連結会計年度末には9,858百万円(同

28.2%増)となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、資金収支は4,848百万円の収入(同18.8%増)となり、前連結会計年度末に比べ768百万円の収入の増加となりました。これは主に、「減価償却費」が379百万円増加したことなどによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、資金収支は551百万円の支出(同84.2%減)となり、前連結会計年度末に比べ2,933百万円の支出の減少となりました。これは主に、「出資金の払込による支出」が1,724百万円減少したことなどによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、資金収支は1,848百万円の支出(同177.3%増)となり、前連結会計年度末に比べ1,181百万円の支出の増加となりました。これは主に、「長期借入金の返済による支出」が622百万円増加したことや「連結の範囲の変更を伴わない子会社出資金の取得による支出」が213百万円増加したことなどによるものです。

3. 経営成績の概況

当連結会計年度における世界経済は、減税効果などにより設備投資や個人消費が堅調に推移したアメリカを中心として景気拡大の基調が続きましたが、年度後半からは米中貿易摩擦や中国の景気減速、英国のEU離脱やヨーロッパでの政情不安など、不確実性が高まっております。日本経済においては、世界の潮流による影響を受けつつも、良好な雇用環境や省力化ニーズの高まりを受け、個人消費や設備投資が底堅く推移しました。

そのような経営環境のなか、当社グループは中期経営

計画の最終年度を迎え「真のグローバルワン・エクセレントメーカー」を目指して事業活動を続けた結果、売上高、営業利益、経常利益においては、創業以来の最高実績となり、ROEは6期連続で2桁台を達成することができました。同時に新たな中期経営計画を策定し、さらなる成長に向けた活動を開始しました。

圧縮機製品では、従来から継続してきた提案型営業の割合が増加したことにより、日本では、オイルフリースクロールコンプレッサや中形圧縮機の販売が伸長しました。海外ではインド、ブラジルなどの新興国や中国を主としたアジアにて医療向け圧縮機ユニットや付帯機器が継続して伸長し、電動バスや鉄道車両等の公共交通機関向け車両搭載用圧縮機ユニットの販売も同様に、アメリカ、インドなど中国以外のエリアにおいても引き続き伸長しています。また、前連結会計年度末に連結子会社とした中国のスクリー圧縮機製造・販売会社である上海斯可絡圧縮機有限公司や、当連結会計年度に連結子会社とした台湾のエアブラシや医療向け小形圧縮機製造・販売子会社であるANEST IWATA SPARMAX CO.,LTD.の業績が好調に推移し、当社グループの成長へ貢献しました。

真空機器製品では、日本の販路活用と展示会出展や機関誌掲載などのプロモーションによる一般工業市場向けオイルフリースクロール真空ポンプの販売が定着してきましたが、他方、アメリカ、ヨーロッパにおける当社の供給先である装置メーカーやOEM先の需要減少といった海外での苦戦が継続いたしました。

塗装機器製品では、自動車補修塗料メーカー各社さまとのコラボレーションを継続し、特定塗料に対する認証取得活動や各種プロモーション活動に注力したヨーロッパ、地域に見合ったモデルの投入により当社ブランドを真に認

識されることを目指した中国などで販売が伸長しました。また、日本をはじめ、工業塗装市場へ十分な活動ができていなかった世界各国においてターゲットの選定や、各地域に見合った施策を立案し、一部の活動を開始しました。塗装機器製品に含まれ、塗料以外の液体を扱う液圧機器製品では、世界各国において、主に製パン・製菓に使用する食液塗布専用のスプレーガン、液体供給機器などの拡販活動を継続し販売を伸ばしています。

塗装設備製品では、設備更新のはざまにあり大きな伸長とならなかった日本に対して、北米、中国の自動車部品製造やインドの木工品製造といった海外市場への塗装設備納入により伸長しました。また日本では、塗装設備導入を検討されているお客さまに対する導入効果測定や、市場ごとにアプリケーションの提案を可能としたコーティングソリューションセンターを設立し、次期活動へ向けた準備が完了しました。

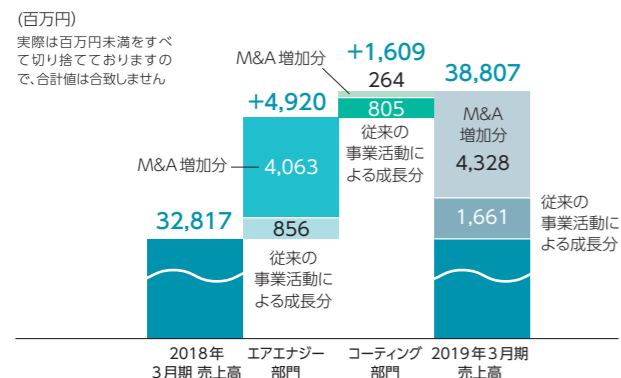
その結果、当連結会計年度の業績は、売上高38,807百万円(前連結会計年度比18.3%増)、営業利益4,339百万円(同13.5%増)、経常利益4,701百万円(同8.0%増)、親会社株主に帰属する当期純利益2,947百万円(同4.9%増)となりました。

4. 次期の見通し

本報告書発行日現在における2020年3月期通期の業績予想は以下のとおりです。
 売上高：40,000百万円(当連結会計年度比3.1%増)
 営業利益：4,400百万円(同1.4%増)
 経常利益：4,800百万円(同2.1%増)
 親会社株主に帰属する当期純利益：3,100百万円(同5.2%増)

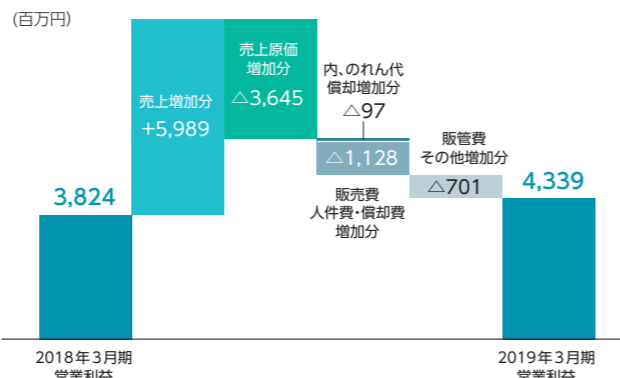
(想定為替レート)1ドル=105円、1ユーロ=120円、1元=15.5円

売上高要因分析(2019年3月期)



※ 中国のスクリー圧縮機製造・販売会社であるSCR社および台湾の小形圧縮機製造・販売会社であるANEST IWATA SPARMAX社の連結子会社化、イタリアの持分法適用関連会社の子会社化のため

営業利益要因分析(2019年3月期)



※ 同時期の為替変動に伴う営業利益への影響は30百万円の増益

2020年3月期業績見通し

(百万円)	2020年3月期	構成比	2019年3月期	構成比	増減金額	増減率
売上高	40,000	100%	38,807	100%	1,193	3.1%
営業利益	4,400	11.0%	4,339	11.2%	61	1.4%
経常利益	4,800	12.0%	4,701	12.1%	99	2.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	3,100	7.8%	2,947	7.6%	153	5.2%
平均為替レート	2020年3月期予想		2019年3月期実績		※年間、1円/ドルの円高で経常利益15百万円、1円/ユーロの円高で経常利益15百万円が、それぞれ減少	
(対ドル)	105.00円		110.43円			
(対ユーロ)	120.00円		130.42円			
配当	2020年3月期予想		2019年3月期実績			
金額	24円		22円			
配当性向	32.3%		31.2%			